

平成 30 年度第 1 回十日町市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成 30 年 6 月 26 日 (火) 午後 1 時 30 分

2. 会 場 十日町市役所 車庫棟 2 階大会議室

3. 出席者 市長 関口 芳史
教育長 蔵品 泰治
教育委員 吉楽 隆一
教育委員 庭野 三省
教育委員 佐藤 美佐子
教育委員 浅田 公子

説明のために出席した者

| | | | |
|---------|-------|-----------|--------|
| 子育て教育部長 | 樋口 幸宏 | 文化スポーツ部長 | 富井 敏 |
| 建設技監 | 齋木 修 | 防災安全課長 | 星名 一弘 |
| 医療介護課長 | 小林 良久 | 学校教育課長 | 山岸 一朗 |
| 生涯学習課長 | 鈴木 規宰 | 発達支援センター長 | 齋木 ゆう子 |
| 文化財課長 | 佐野 誠市 | 指導管理主事 | 山本 平生 |
| 指導主事 | 丸山 浩一 | 教育総務課長補佐 | 市川 伸 |

事務局

| | | | |
|---------|------|---------|-------|
| 総務部長 | 笠原 実 | 企画政策課長 | 鈴木 政広 |
| 企画政策課係長 | 齋喜 直 | 企画政策係主査 | 酒井 潤 |

4. 議 題 (1) 十日町市の「地域ぐるみでの子どもの見守り推進」について
(2) 十日町市立学校の特別支援教育の現状と課題について
(3) その他

【会議資料】 資料 1-1 十日町市の「地域ぐるみでの子どもの見守り推進」について
～教育現場を取り巻く現状と課題～
資料 1-2 十日町市の「地域ぐるみでの子どもの見守り推進」について
資料 2-1 十日町市立学校の特別支援教育の現状と課題
資料 2-2 乳幼児期から就労までの支援体制

笠原総務部長（開会）

関口市長（あいさつ）

本日は、平成30年度第1回目の十日町市総合教育会議ということで、お忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。

市では平成27年度に策定した教育大綱及び総合計画において、基本方針の一つである「ふるさとを愛し自立して社会で生きる子どもを育てるまち」を掲げ、学校教育環境の充実や特色ある教育活動の展開を推進しております。

今回のテーマの一つとして、「地域ぐるみでの子どもの見守り推進」を挙げております。これは、昨今発生しております子どもたちをめぐる悲惨な事故や事件、あるいは自然災害などから子どもたちを守り、学校教育の現場やあるいは地域ぐるみでどのような取り組みやどのような課題があるかを共有させていただき、児童生徒の安全・安心な教育環境の確保についての議論をより一層深めるため、議題の一つとして挙げさせていただきました。

また、もうひとつのテーマとしては、十日町市教育大綱の基本方針でも掲げております、「特別支援教育の充実」についてです。十日町市では現在、庁内外の関係機関と連携し、乳幼児期から就労を見据えた青年期まで、途切れの無い支援体制の充実を目指して取り組んでおります。

幼保小中へのスムーズな移行を支援するため、また保護者の皆さまをしっかりとサポートする体制を作るため、特別支援教育推進チームによる支援体制の充実を図り、「教育センター」と「ふれあいの丘支援学校」、「発達支援センター」を中核に位置づけ、特別支援教育の一層の充実を図っていくことにより、支援を要する児童生徒が夢と希望を持って成長できる環境づくりに努めることが重要であると考えております。

さて、今年は大地の芸術祭の開催年であり、これまでも当会議において、大地の芸術祭に対する教育現場の関わりを議論いただいたことがありました。今回、大地の芸術祭に参加する国々をテーマにした給食を松代、松之山地域において提供して頂けることになりました。今年市内全小・中学校の児童生徒が、作品制作や作品見学に関わる機会を検討いただいているとのことで、これにより子ども達から芸術祭に一層、興味をもっていただき、地域の魅力に触れることで、郷土に愛着を持ってくれることを望んでいます。このことは市外の子ども達にも効果をお届けするべきではないかと思っております。

本日、上越市に水族博物館「うみがたり」がオープンいたしました。素晴らしい施設が近隣にあることを活用し、教育活動に活かすとともに、大地の芸術祭の取組に近隣の市町村だけでなく多くの地域から子供たちが来てくれるような取組も開催に向けて考えていかなければならないと改めて思っております。

そして、これらの取り組みなどにより、ふるさとを愛する子どもたちを増やしていくこと、子供たちの地域に対する肯定感を強くすることが重要な政策に結びつくものと思っております。活発なご審議よろしくお願い申し上げます。

笠原総務部長

ありがとうございました。本会議の運営にあっては、市長が「総合教育会議」を招集することとされておりますことから、以降の進行につきましては、関口市長から、進行をお願いしたいと思います。

関口市長

それでは、私の方で進行させていただきます。お手元の次第に沿って進めてまいります。まずは、議題（１）「十日町市の『地域ぐるみでの子どもの見守り推進』について」ですが、資料が用意されていますので、事務局から説明をお願いします。

（議題（１）「十日町市の『地域ぐるみでの子どもの見守り推進』について」の資料１－１を山岸学校教育課長が、資料１－２については、星名防災安全課長がそれぞれ説明を行う。
（省略）

関口市長

それでは説明が終わりましたので、教育委員の皆さまからご意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

吉楽委員

新潟で傷ましい事件があり、直近では静岡県藤枝市で凶器を持った不審者の犯罪がありました。特異な犯罪事例であり極端に恐れてみる必要はなく、個人的には十日町市は小中学生中心に防犯行動、交通安全の活動を過去よりしているので発生が非常に小さいと思うのが全体の１つの感想であります。

非常に犯罪が多様化しており、特に教育委員会のPTA活動をしている中で「不審者」という三文字が、どのような判断で不審者と見定めるのかという話になりました。地域において、そこに住んでいる方に地域の活動に協力いただいているので、その地域から不審者情報は考えにくいと思います。十日町市外から、そういった情報が入ると思っていました。こういった中で考えると不審者に対する子供達への認識については、学校の先生はじめ保護者のみなさんに、子供が１人にならないような形にし、登下校を第１優先に考えていただきたいと思っております。

十日町地域で考えるとスクールバスで家の近くまで送り迎えしているので、バスを降りてから家に着くまでに個別に犯罪に巻き込まれやすいところ等を、もう１度認識してみるといいかと思えます。

最後に、地域の関係につきましては、地域力が落ちておりまして、朝の通学時間帯は保護者は仕事で、家は無人化されるか、高齢者の方がいらっしゃる状況で、下校時は更に地域の方に見守る十分なマンパワーがないような状況というものが今起こっている。そういった

意味では地域への過大な見守りの期待は難しいと思っております。

庭野委員

先般の大阪地震のことを考えるとブロック塀の問題があります。不審者対策だけに特化しているような気がしているが、交通安全、危険な箇所等、そういったところにも目配りしなければならないと思います。

私は中条小学校区に住んでいますが、実は大変危ないブロック塀があることに気づいたので中条小学校に連絡しました。ブロック塀はそんなに高くないが石垣の上にあるものですから、実質、基準をオーバーしています。これが落ちてくると、とても危ないわけで、今まで関係者同士で危険を共有できていないところがあったので、そういうところも含め、今後は総合的に見ていただきたいと思います。あきらかに不審者よりも交通安全での問題のほうが事故に遭う確立が高いので、そういう面も研究したらどうか。

佐藤委員

私は松代地区に住んでおり、こういった見守り隊が一番だと感じています。下校時間帯に市内を車で走っていると黄色のベストを着た見守り隊の皆さんが道路に出てくれるのが、とても良いなと思っております。

私は今、朝出来る日に旧松代の1つしかなかった信号機があった場所に立ち、子供たちの登校の様子を見ており、朝は集団で登校しますので危険は少ないかと思いますが、問題は下校時と感じます。低学年は早い時間帯に下校しますので、小さいお子さんが遠い距離を歩かなければならず、無事にたどり着くか不安に思います。

ブロック塀よりも松代の場合は雪の壁が崩れてくるということもありますし、また流雪溝に雪を流す時間帯は流雪溝に落ちる、滑る、可能性があることにも不安を感じています。

今、スクールバスという話がありましたが、学校に対して自由に使って良いバスが与えられたら自宅まで遠い低学年のお子さんの下校時や部活動など、いくようにも活用できますのでバスがあったらいいなという思いです。

浅田委員

私は西小校区ですが、比較的、登下校の際は地域の方の見守り隊の方が良く面倒みてくださっていると感じます。

西線沿いで車通りが多く、歩道が細い箇所では歩道と車道に柵がなく危険と感じているところもあります。

教育長

貴重な発言ありがとうございました。

吉楽委員の不審者の判断は、私も子供達にどう分からせるかというのが課題であると思

いました。子供達は地域の皆さんに「あいさつ」をするようにと話をしていますが地域の人と分からない人がいても、あいさつをしてしまうことが、たまたま不審者の可能性があるわけで、そのあたりの指導のやり方は大いに課題があると思いました。

庭野委員のブロック塀の話がありました。私も中条から新座を見回りさせて頂きました。公の土地であればいいが民間の土地、個人住宅の敷地内となると難しく、そのあたり地域の方と一緒に考えていかなければならないと感じております。

佐藤委員、浅田委員の雪の壁、車道の柵など危険な箇所の感じ方など、今年からそれぞれの学校にコミュニティスクールが始まったので、そういう場を活用しながら、しっかりと課題共有、そして問題解決を図っていきたいと感じました。

市長

新潟の事件、大阪の地震、事が起こってから対応していなかったんだと言われてしまえば返す言葉もないんです。特に地震対応は神戸であれだけのことが起こったのにも関わらず大阪では何もしていなかったのかと言われても返す言葉がないんです。

今回のことで、改めて、しっかり対応しなければならぬと思い、ここで議論いただいたことを参考にし、新しい視点で、このタイミングで、しっかりとどのように解決するか、問題に向かっていかなければと感じたところでございます。貴重なご意見ありがとうございます。

次に議題（２）「十日町市立の特別支援教育の現状と課題について」ですが、こちらも資料が用意されています。事務局は説明をお願いします。

（議題（２）「十日町市立の特別支援教育の現状と課題について」の資料２－１を山岸学校教育課長が、資料２－２については、齋木発達支援センター長がそれぞれ説明を行う。（省略）

関口市長

ご意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

吉楽委員

十日町の当初からの発達障害に対する成果がようやく、いろんな形で出てきたのかなと思っております。

ただ1点、平成17年の43名から平成29年までに4.4倍に増加しているのには、色んな要因があると思いますが、全国的に発達障害と言われている色んな症例のある子たちが増えてきているのが気にかかるところであります。

即効性はないのかもしれませんがもしも何らかの色んな社会的な要因があるのか、それは大学等いろんな研究からの成果といいますか、そのあたりの原因にも関心があるところで

す。これは特に十日町市が研究していくとかではなく、これだけ発達関係の支援体制を考えた中で、幼・小・中・高、卒業して働くというまでの一生を通じて関係性が必要になっていくような印象がありますので、是非、小中一貫教育というのを論じる中で子供たちの発達段階の中で本人の関係が見える化できることが教育の在り様と思っている。その点をデータ化するといえますか、そういった中で保護者の不安感などが最大のテーマになってくると思うので、そのあたりを関係各所のいろんなアイデアを出し合い解決いただければと思っています。

市長

なぜこのように増加するのかということにお答えできるようであれば、お願いします。

丸山指導主事

発達障害に対する理解が進んでおりまして、それに対する判断、お子さんへの対応、基準が明確になってきています。昔は曖昧だった点が今は明確化されてきて、それに対応が適切に行われるようになってきました。つまり、今までは見過ごされてきたお子さんたちの中に、支援が必要なお子さんなのか判断が下せるようになってきたことが1つの大きな要因とっております。細かなことを言えば、いろんな原因等も考えられると思いますが、それが一番大きな支援が進んでいることに繋がっていることだろうと思っています。

庭野委員

増えているということは確かにそうだが、それは結局、子どものおかれた環境もあると思います。特定の人意見になりますが、親自身の生活スタイルが発達支援の障害を生む状況になってきていると主張してきている。具体例をあげると、親がスマートフォンのゲームに夢中になり子供の相手をしないことが、子供が育つべき時期に安定した情緒がつかないというのも1つの原因ではないかと評論家の柳田邦男さんの見解です。これは一種の児童虐待とも言っています。

総合的に親の教育が絶対的に必要だと思います。親と子どもがどれだけ直接的な体験で育てられるか、そこにどうやって行政が支援できるのかということがカギになると思います。

先日、新幹線で事件が起きました。男性の父親は息子のことを諦めています。基本的な情緒を育てず、周りに見捨てられ、本人は声を上げることはしないですよ。現職時代の校長の言葉で「特別支援教室で学んでいる子を犯罪者にはいけない」とおっしゃっていました。残念ながら、その時期にふさわしい愛情をもらわないために歪んでしまい、事件を起こす若者がいるわけです。その事実を重く受け止め、親を含めた大人のあり方を問題にしなければ解決しないと思います。

齋木発達支援センター長

親御さんとの関わりというのが非常に大切になっているというのを感じる例としましては、私ども乳幼児健診から入っております、親御さんの相談、子どもさんの様子を見て広場というところに繋いでいるわけです。そこでお母さんが、「子どもと話ができない」「一緒に遊べない」こういう事例が最近多くなっているということで私どもスタッフはとにかく親子の関わりというのを、まず最初のベースとして、特に発達障害の疑いのあるお子さんを親御さんが受け入れられないというケースが非常に多くなっているのです、子どもさんの発達を促すという訓練もしますが、保護者に対しても子どもとの関わり、どのように困っているのかということ相談できる体制を、ここにはあるんだとお示しながら関係を良くしながら訓練等をしております。

庭野委員

今のことを学校もしなければいけないんです。なかなか今は学校は忙しくて、どれだけ家庭に入り込めるか。私が若い頃は、「子どもの問題は親の責任だ、学校と分けて考えて」とストレートに言う校長もいたが、今はそんなことを言ったら大変です。学校もできることに限界があります。出来る範囲で家庭に入り、親を支援しないと困るばかりになると思います。

丸山指導主事

教育センターとしても保護者に対して指導を進めたいと考えているところです。PTAと連携しながら子どもたち、保護者向けにも指導していきたいと思っておりますし、今、ガンホというスマホゲームの会社ですか、そちらからゲームと正しい付き合い方という資料が無償でいただけるので、市内小中学生4,200届いたところです。指導のやり方と合わせながら学校教育に繋げ、保護者向け、子ども向けに指導していきたいと考えております。

浅田委員

親が原因で子どもに影響を及ぼすというところまで考えが及ばなかったのですが、総合的に考えることが大事だと思いますし、今現在、そういう状況におかれたお子さんたちに手厚く支援することも大事だと思います。

佐藤委員

親として自分の子どもの発達障害を認めるのは切ないことですが、親御さんへのフォローもしていただけるのは、とてもありがたいことですし、この「ふれあいの丘支援学校」ができたこと自体が素晴らしいと感じています。

昔であれば一緒に学習していたと思うのですが、そういった部分も必要だと感じる場所もあります。今の時代、自分勝手に進んでいく子どもさんが多くなっていく背景があるので、助け合いの気持ちを子どもたちや親御さんにも持ってもらうためにも普通のお子さん

と交わり、一緒に活動できる場所は活動していてももらいたいと思います。

保育園の時、普通学級に行けるのか気に留めていたお子さんが、小学校から周りの友達の協力を受け、中学校に入る頃には普通のお子さんとして授業が受けられるように成長されていく過程も見ていますので、小さい時期から見て頂けることが良いことはありがたいと思います。

庭野委員

高校中退、ひきこもりの子どもをどうするのが、今後大事になってくる事と、若者の定住にも繋がってくる事と思います。一步間違えて人生を間違えるとドロップアウトしてしまう。高校で不登校になった子どもをドロップアウトしないように引き上げてあげることが大事になってくると考えます。そういった子どもの情報が入ってこないわけですから。若者の定住に大事な事だと思います。

市長

おっしゃるとおりで、教育委員会の対応外になり、福祉のほうで対応となる。市内で「フォルトネット」という団体が、一生懸命ひきこもりのみなさんに対する活動をされています。県内でも立派な活動だと思います。そうしたところと、しっかり連携していかなければならなりません。議会ではかなり議論されているところでもあります。

産まれてから、できるだけ早く気づき、保護者の方も受け入れ、療育が始まれば治るものもあると言われていています。ですから、まずは早く認知し、そして適切にお伝えし、保育士の情報だけではなく、臨床心理士などの皆さんから適切に見ていただくことができる体制づくりを心掛けていくところでもあります。その後、教育委員会へバトンタッチ、その中で教育センターで対応がはじまり、連携がはじまります。そして就労移行に向け、例えば十日町高校定時制の役割が非常に大きく、これからも大事になると思います。そこで自信をつけ、また頑張っている卒業されている子もいます。そしてフォルトネットなどの機関と連携といった、産まれてから成人するまで、行政がケアする体制づくりが必須であると思っています。

教育長

私も小学校へ入る前の子どもたちの育て方に関心があり、いろんな場面を見ていますが1つは午後10時頃に2、3歳の子どもを抱っこしてコンビニに行くという姿を見かけたことがあります。これでいいのかなと思いますし、また、スマートフォンで子どもの育児をするという話もあり、それも目にしたことがあります。今の若い人達の若い親御さんの生活スタイルといいますか、そこは、しっかり親御さんから考えてもらいたいと思っています。新しく親になる教育、指導も大事だと思いますし、先ほどの発達支援センター長の話にありました、親が子と遊べないという例が出てきているということは初めて聞いたので、発達支

援センターとして、どういったことが課題になっているのか、改めて自分自身、勉強しに参りたいと思いました。

関口市長

それでは、お時間の関係もありますので、議題（２）は以上にさせていただきたいと思えます。議題（３）「その他」についてでございますが、今回テーマにした議題以外にも是非コメントしたい内容がありましたらお願いします。いかがでしょうか。

庭野委員

資料を用意しました。

いじめの問題があると「命をたいせつに」という指導をするが、抽象的な指導ではなく、いじめから逃げるんだということと、そのサインをもっと早く学校、親が分からないといけないと思えます。そして具体的な行為をとれるようにするのが大事だと思えます。いずれにしろ、子どもの問題は、社会の問題、大人の問題ですので子どもだけ解決するのではなく、大人、子ども共に解決していかなければいけないと思えます。

吉楽委員

クロアチアとの交流事業で、私は今、サッカーの世界カップで当然日本を応援していますが、クロアチアは大変なところまで勝ち上がるだろうと思っておりますので、ぜひ、市長から、その場面がきましたら、お祝いのメッセージを送ってほしいなと思っておりますし、中学生においては小中一貫の流れもありますが、ぜひ交流している外国の同じ世代の子どもたちと、なんらかの形で触れ合えるチャンスも先々作っていただければ、ありがたいと思っております。

市長

今、ロシアワールドカップで頑張っているクロアチアのチームに十日町で折った1,500羽の鶴が届けられたということでもあります。そして、クロアチアの子どもたちが日本語で歌ってくれたビデオ等が日本の代表チームに届けられたそうです。

もうじきアンダー17の選手たちが来ます。高校生とは毎回、交流試合をやっていますが、できるだけその機会も観ていただいて、自分たちと同じ世代の子が活躍しているところを見せてあげられたらと思っております。これからクロアチアの代表になる候補かもしれない彼らが十日町に毎年来ているわけですから、これはすばらしいことであり、しっかりと発信していきたいと思えます。今度、レセプションがありますが市民の皆さまにも興味がある方にはおいでいただけるような形のものにしました。

それでは、議題（３）「その他」の関係については以上とし、進行を事務局にお返しします。

笠原総務部長

限られた時間ではありましたが、貴重なご意見等、ありがとうございました。それでは、閉会のあいさつを蔵品教育長からお願いいたします。

蔵品教育長

本日の総合教育会議のテーマの2点について意見交換を承ったわけでございます。ありがとうございました。

昨今、子どもの取り巻く環境の中では、様々な事件や事故、色んなものが報道されておりますけども、それらのひとつひとつを他山の石として十日町の教育行政を振り返る1つの手立てにしなければならぬと思っているわけございまして、これからも地域の皆さん、保護者の皆さん、色んなお力をお借りしながら前進を図っていきたくと思いました。

また、もう1つ特別支援教育の部でございますが、先ほど特別支援教育のデータが出ておりました、平成17年から特別支援学級に在籍が42人でありました。平成22年に126人と、3倍に増えたわけございまして、ちょうどその頃、十日町小学校の改築の問題がありました。あの頃は県で当時の川西高校の場所に特別支援学校を作りたいという話があり、この状況の中で市として大きな特別支援の力をつけなければならないということで関口市長から判断いただき、あの場所にふれあいの丘支援学校という特別支援学校を併設し、更に発達支援センターを併設させたわけでございます。そして共生教育の実践が行われているわけでございますが、これについては本当に自慢できる施設であり、全国レベルとして文科省の方でも紹介されておりますし、先月、関東甲信越の教育長協議会で事例発表させていただき、いろいろご質問を承りました。十日町市の先進的な事例が他の市町村にとっては羨ましいとそんな風を感じてきました。

特別支援教育の関係で、十日町市が頑張っていることをお話させていただきたいと思いますが、小学部また中学部については通学のバスが当然となりますけども、今、川西高等特別支援学校が新しく独立し、高等部の子どもたちについても以前から通学の便宜を図っており、市が相当な金額を出しながら、ご支援させていただいていることもありまして、これについても県内、他市は、そういう状況はないということでありまして、市長が掲げる「人にやさしいまちづくり」これは、その大きな部分のひとつだと思います。

学校教育の目当ては「ふるさと十日町を愛し自立して社会で生きる子どもの育成」であります。これに邁進することが翻り「選ばれて住み継がれるまち十日町」の実現に結びついていくものと確信をしているところでございます。

今後とも、皆さま方のご理解、ご協力、また、ご指導賜りたく、お願い申し上げまして閉会のあいさつとさせていただきます。本日はありがとうございました。

笠原総務部長

以上をもちまして、本日の総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。